

平成21年度「専修学校留学生総合支援プラン」成果報告書

事業名	「キャリア形成のための留学生就職支援プログラム」		
法人名	学校法人 浦山学園		
学校名	富山情報ビジネス専門学校		
代表者	校長 永井 真介	担当者 連絡先	副校長 小平達夫 Tel.0766-55-1420
1. 事業の目的・概要等			
<p>将来のキャリア形成を考える留学生にとって、専修学校専門課程を卒業後、我が国で働くことができることは、留学の大きな誘引となっている。</p> <p>また、留学生を卒業後も積極的に取り込み、専修学校専門課程で学んだ知識や技術を生かして引き続き我が国の企業等で活躍することは、企業等のみならず我が国の発展やグローバル化に大いに寄与すると考えられるとともに、就職企業が留学生の出身国に展開する場合も多いことから、母国と日本の架け橋となって活躍するというODA的な側面も達成でき、より大きな効果が期待できると考える。</p> <p>本事業は、専門学校に在籍し、日本での就職を希望する留学生に対する就職支援の「プログラム構築」、「有効なテキスト作成」、「就職支援」を行なうことで上記の『架け橋』への貢献が出来ることを目的とする。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）			
<p>■「技術」及び「人文科学・国際業務」の就労ビザ取得のための共通項目講座内容を主に構築する。</p> <p>●開設講座数：5講座</p> <p>●開設期間 平成21年10月26日（月）～平成22年1月25日（月）</p> <p>●開設講座名及び時間数</p> <p>①ビジネス日本語：40時間 ②日本企業文化（商習慣）：20時間 ③ビジネスマナー：20時間 ④IT企業知識：10時間 ⑤観光・ホテル業界知識：10時間</p> <p>●企業実習等 平成22年1月18日（月）～平成22年1月22日（金） 実習時間数：16時間</p> <p>上記の他、キャリアコンサルタントによるキャリアカウンセリングを3回（①講座受講前、②講座受講後実習開始前、③実習終了後）</p>			

上記実施及び本事業の具体的な内容の構築は、協力団体等からのヒアリング等により展開した。

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

受講者募集に当たっては当初新聞広告を考えたが、現実として富山県内の専門学校において留学生が在籍している専門学校は殆ど当校のみであり、当校の留学生で受講可能な留学生は3名であった。当初の計画であった「受講生10名」を確保するために、今回の協力校である名古屋経営会計専門学校の留学生にも受講していただくことになった。このことについては、第1回運営委員会において了承された。（成果報告書 P8 議事録のご参照願います。）

③受講者の状況

最終的な受講生は9名となり、内訳は以下の通りである。

性別： 男性7名 女性2名

年齢：21歳1名、22歳2名、24歳1名、26歳2名、27歳1名、30歳1名

出身国：中国5名、韓国2名、イタリア1名、トルコ1名

④受講者・企業の意識調査等

授業内容満足度

①全体	:	満足	7	不満	2
②ビジネ日本語	:	満足	8	不満	1
③日本企業文化	:	満足	7	不満	2
④ビジネスマナー	:	満足	8	不満	1
⑤業界知識（IT）	:	満足	3	不満	6
⑥業界知識（ホテル・観光）	:	満足	9	不満	0

授業の進捗

①ビジネ日本語	:	速い	1	丁度	6	遅い	2
②日本企業文化	:	速い	3	丁度	6	遅い	0
③ビジネスマナー	:	速い	2	丁度	7	遅い	0
④業界知識（IT）	:	速い	3	丁度	3	遅い	3
⑤業界知識（ホテル・観光）	:	速い	1	丁度	8	遅い	0

授業全体の意見

- ・ある授業は文章ばかり読みました。先生のくわしい説明がほしいです。
- ・いろいろなことを勉強して、自分の知識はもっと広くなりました。
- ・ITの説明が分かりにくかった。もっと詳しく説明してほしいです。
- ・普通の授業と比べて大分違いますから、楽しくてよく役に立ちました。機会があればぜひもう一度こんなタイプの授業をやりたいと思います。
- ・先生が分かりやすくていねいに教えて下さって、ありがとうございました。日本のマナーが身につくように頑張りたいです。日本についてもっと詳しく了解して、いろいろな知

識が身に付けてよかったと思います。

企業実習に対する期待度

- | | | | | |
|----------|--------|---|---------|---|
| ① 全体 : | 期待している | 7 | 期待していない | 2 |
| ② IT企業 : | 期待している | 5 | 期待していない | 4 |
| ③ ホテル : | 期待している | 7 | 期待していない | 2 |
| ④ 見学 : | 期待している | 9 | 期待していない | 0 |

企業実習について体験してみたい業務について

- ・留学生ができるような難しくない業務を体験したいです。
- ・日本のIT企業はどんな仕事をするのか、ホテルはどんな管理をするのか体験したい。
- ・見ることと聞くことも大切ですが、直接仕事などをやってみたい。
- ・サービス業務を体験したいです。
- ・直接迷惑をかけずに社員と一緒に体験したい。目標をもらって体験したいと思います。できればプロジェクトをやれば良いと思います。

企業実習の満足度

- | | | | | |
|----------|----|---|----|---|
| ① 全体 : | 満足 | 7 | 不満 | 2 |
| ② IT企業 : | 満足 | 7 | 不満 | 2 |
| ③ ホテル : | 満足 | 3 | 不満 | 6 |
| ④ 見学 : | 満足 | 9 | 不満 | 0 |

企業実習で他に体験してみたかった業務について

- ・ホテルの見学が時間が短かったので、いろいろやってみたらいい経験になると思いました。
- ・お客さんのためにする準備やサービスなどをもっと知りたかった。
- ・日本のIT企業はどんな仕事をするのか、ホテルはどんな管理をするのか体験したい。
- ・企業の会議に参加したかったです。
- ・ホテルでフロントの業務をやってみたかったです。

企業実習全体の感想

- ・毎日レポートに書いた通り、一般的に本当に楽しくて素晴らしい経験でした。機会があればもう一度やってみたいです。しかも、富山で友人もできて、もう一度ここに来るつもりです。
- ・やらされた仕事あまり難しくなくて、一般的でちょっとつまらなかったです。
- ・日本人かわいそうです。
- ・学生の専門に合わせての方がもっとよいのではないかと思います。
- ・説明や言葉などをもっと分かりやすく教えてもらったらよかったかなと思います。
- ・富山県に来て、日本の社会のマナーや日本の歴史について、いろいろ教えて頂いたので、日本で商売したいかたと就職したいかたに役に立てると思います。

富山の魅力について

- | | | | |
|--------|---|---------|---|
| 魅力があった | 7 | 魅力がなかった | 2 |
|--------|---|---------|---|

- ・静かに暮らせるいいところ。
- ・鉄道を走る電車と山が見えるところです。
- ・本気でここに住んで見たいと思いました。

就職考えても富山がいいと感じました。

- ・落ち着いた感じで住みやすいところだと思いました。
- ・山の景色、雪がすごくきれいです。

日本での就職希望

- ①実習前： 希望している 3 決めていない 6 希望していない 0
②実習後： 希望している 8 決めていない 0 希望していない 1

日本での就職希望先

- ①実習前：大阪 1 名古屋 1 どこでも 1 その他 1
②実習後：大阪 1 名古屋 3 富山 1 どこでも 2 その他 3

日本での就職する際の課題について

① 実習前

- ・外国語を使って就職するのは自分の目標です。
IT か観光の関係
- ・日本の勉強、文化

② 実習後

- ・日本で就職したくない。
- ・留学生との異文化でコミュニケーションがうまくいけるかどうか。
- ・日本語の意味が分かりやすく伝えられるか。
- ・仲間とよい関係を作れるか。
- ・日本で就職するなら、きびしくて大変そうだけど、がんばりたいから、もうここで就職することに決めました。よい経験になりそうだし、自分も強くなります。日本で就職できたら、どこに行っても仕事が簡単になりそうです。
- ・日本語と自分の目標をはっきり決めること。
- ・日本語や自分の目標をしっかり考えなければならない。
- ・私はビジネスに関係がある仕事をやりたいです。実は私はお客様の笑顔をみたいです。だから心を使って仕事をします。

実習後の企業からの意見

〔北陸コンピュータサービス株式会社〕

経営管理部人事グループ長

- ・留学生はISOなどのビジネス用語がわからなかった。
- ・LANケーブルを作って通信テストをするなど実習を取り入れたことが良かった。
- ・講師となった社員が片言のイタリア語や中国語を勉強してくるなど社員にとっても刺激になった。
- ・ソフトウェア開発にもともと興味のある人であればよかった。

〔株式会社日本オープンシステムズ〕

管理本部人事総務部

- ・留学生の態度は良好であった。
- ・期間が短かったので、どれほどのことはできなかった。

〔北電情報システムサービス株式会社〕

マネジメントグループ副課長

- ・挨拶はしっかりできていた。
 - ・新入社員研修と合同で行った研修では積極的に質問をし、新入社員以上に明るく元気であった。
 - ・朝のラジオ体操から参加させるということで、現場としては準備が朝早く大変であった。
- 〔ANA クラウンプラザホテル〕

人材開発支配人

- ・実習にあたった日は比較的閑散としており、それほど大変ではなかったと思う。
- ・期間が短かったので、やってもらえることにも限りがあった。
- ・ネクタイの結び方など基本的なことは覚えてきてほしい。

⑤受講後の状況（修了者数・就職率）

受講者 9 名中、9 名が修了した。
現在のところ内定実績はなし。

3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

授業内容満足度

①全体	:	満足	7	不満	2
②ビジネス日本語	:	満足	8	不満	1
③日本企業文化	:	満足	7	不満	2
④ビジネスマナー	:	満足	8	不満	1
⑤業界知識（IT）	:	満足	3	不満	6
⑥業界知識（ホテル・観光）	:	満足	9	不満	0

授業の進捗

①ビジネス日本語	:	速い	1	丁度	6	遅い	2
②日本企業文化	:	速い	3	丁度	6	遅い	0
③ビジネスマナー	:	速い	2	丁度	7	遅い	0
④業界知識（IT）	:	速い	3	丁度	3	遅い	3
⑤業界知識（ホテル・観光）	:	速い	1	丁度	8	遅い	0

企業実習の満足度

①全体	:	満足	7	不満	2
②IT企業	:	満足	7	不満	2
③ホテル	:	満足	3	不満	6
④見学	:	満足	9	不満	0

上記アンケート結果より、本プログラムの満足度は概ね良好であったが、具体的な就職内定には結びついていない。

②事業の成果及び改善点

成果

- ・留学生用の5分野（ビジネス日本語、日本企業文化（商習慣）、ビジネスマナー、業界知識（IT/観光・ホテル））のテキストの作成ができたことは大きな成果である。留学生が理解しやすいよう全ての漢字にルビをふり、留学生には大変好評であった。
- ・講座受講前、講座終了後の実習前、実習後のキャリアカウンセリングの実施し、学生達のモチベーションアップを図ることができた。また、留学生達が自分の今後の人生（職業人生を含めた）を考える好機となった。
- ・今回のプログラムに実習を取りきれたことにより、留学生達が職業や職業人生、日本で働くことについて真剣に考えることができた。それは実習前アンケート、実習後アンケートの「日本で就職する際の課題は？」という意見の質と量で分かる。
- ・本来、本事業の講座を受講する留学生は、「将来富山で就職したい」という学生を対象にしなければならないのだが、そのような学生はいなかった。そこで、「今は富山での就職を希望していないが、今回のプログラムを通じて、将来富山で働きたくなった。」という切り口もありえると考え、今回、座学のみならず、地域理解（歴史、文化、経済）促進のための富山県内の薬種商、文化的建立物、大手IT企業の見学も行った。それにより、最終的に「富山で将来働きたい」という留学生が出た。これも事業成果に値するものと思う。

改善点

- ・ビジネス日本語：「名刺交換」を入れるべきであった。
- ・日本企業文化（商習慣）：言葉で説明しても中々理解しにくい部分があったと思われる。1日の実習で日本の企業文化を理解するのは難しいと思われる。
- ・ビジネスマナー：言葉の壁があり、授業の内容も理解できていないが多かったと思われる。質問も言葉の壁に阻まれて質問ができないようであった。国の慣習などに違いがあり、日本企業でのケースを話すと困難な印象を持ち、自国での就職を希望するウエイトが高くなったのではなかとと思われる。
- ・業界知識（IT業界）：事前に学生のPCに対する知識・理解度を把握しておく必要があった。
- ・業界知識（観光・ホテル）：授業を通してテキスト内容が難しかったように思われる。事例紹介を踏まえた授業展開をすればより理解度が深まると思われた。授業の進め方においては、グループディスカッションなど、学生自らが考え意見交換する場を多く設定するとより理解が深まったと思われる。
- ・企業実習：企業実習前にスーツ身だしなみ等の事前指導をする必要があった。企業実習において ホテル の満足度が低かった。
- ・その他：授業内容満足度において 業界知識（IT） の満足度が低かった。学生の満足度の高く、充実した実習にするには本件事業の協力先になっていただく必要を感じた。

③次年度以降における課題・展開

- ・ビジネス日本語においては、「名刺交換」も取り入れる。
- ・日本企業文化（商習慣）においては、20時間という時間では短い為、時間数の精査を行う。また、実習においては、1日で日本の企業文化を理解することは難しく、最低1週間の実習が必要だと思われる。
- ・業界知識（IT業界）においては、パソコンを使用するため事前に学生の知識・理解度を把握する。

- ・座学において単に一方通行の授業では学生の主体性をなかなか引き出せなく、教育効果を高める為にグループワークを導入する。
- ・実習開始の前には、留学生の場合は特に事前の受入先との十分な打合せ協議が必要である。今回の実習の IT 企業とホテルにおいてその点が如実に現れた。

④成果の普及

開発したテキストについては、全国専門学校経営研究会会員校等に配布すると共に、平成 22 年 2 月 23 日（火）24 日（水）の専修学校フォーラム 2010 において成果報告会を実施。成果物を成果報告にて配布、並びにフォーラム会場に設置した。今回の専修学校フォーラムには 187 名の参加があった。

専修学校フォーラム 2010 に関する HP は以下の通り。

<http://www.invite.gr.jp/index.php>

<http://www.invite.gr.jp/news/2009/forum2010.htm>